

ゴルフ・イップスの真の正体：心身条件付けによる誤作動を解き明かす

A PCRT Clinical Case Study: 10 Sessions to Complete Recovery



報告者：倉持怜史（接骨院くら） |
PCRT（心身条件反射療法）臨床報告

氷山の一角：イップスは「フォームの崩れ」ではない



無意識の 脳内誤作動

イップスを単なる「練習不足」や「メンタルの弱さ」と捉えるのは誤りです。真の原因は水面下にあります。無意識下の感情、過去の記憶、他者への配慮などが運動神経と結びつき、「脳の誤作動（ショート回路）」を引き起こしているのです。

症例プロフィール：練習場とコースの越えられない壁

プレーヤープロフィール

患者：36歳 男性
(農業機械メンテナンス)

競技歴：ゴルフ歴8年
(週1回レッスンプロの指導を受ける熱心なプレーヤー)

性格的特徴：人が苦手。
人が苦手。過剰に周りを気遣い、争いを好まない共感性の高さ。

ペインポイント



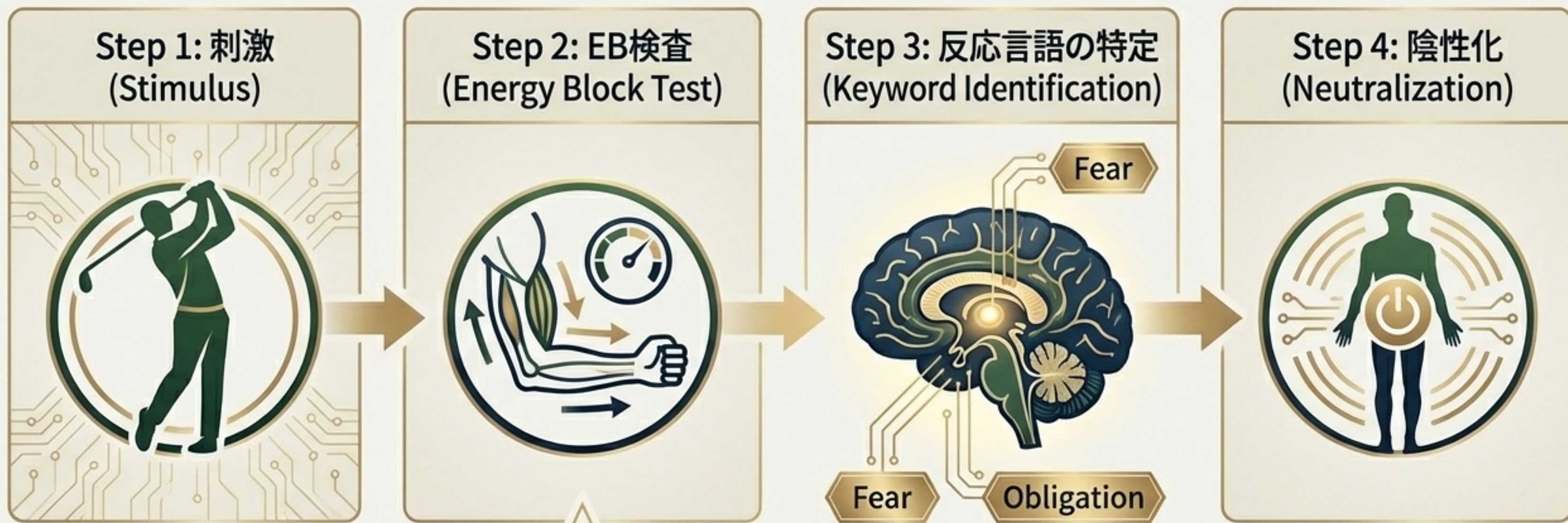
症状の壁

練習では完璧なスイング。しかしラウンドに出ると、トップから下ろす際に身体と腰が完全に固まる。

二次症状

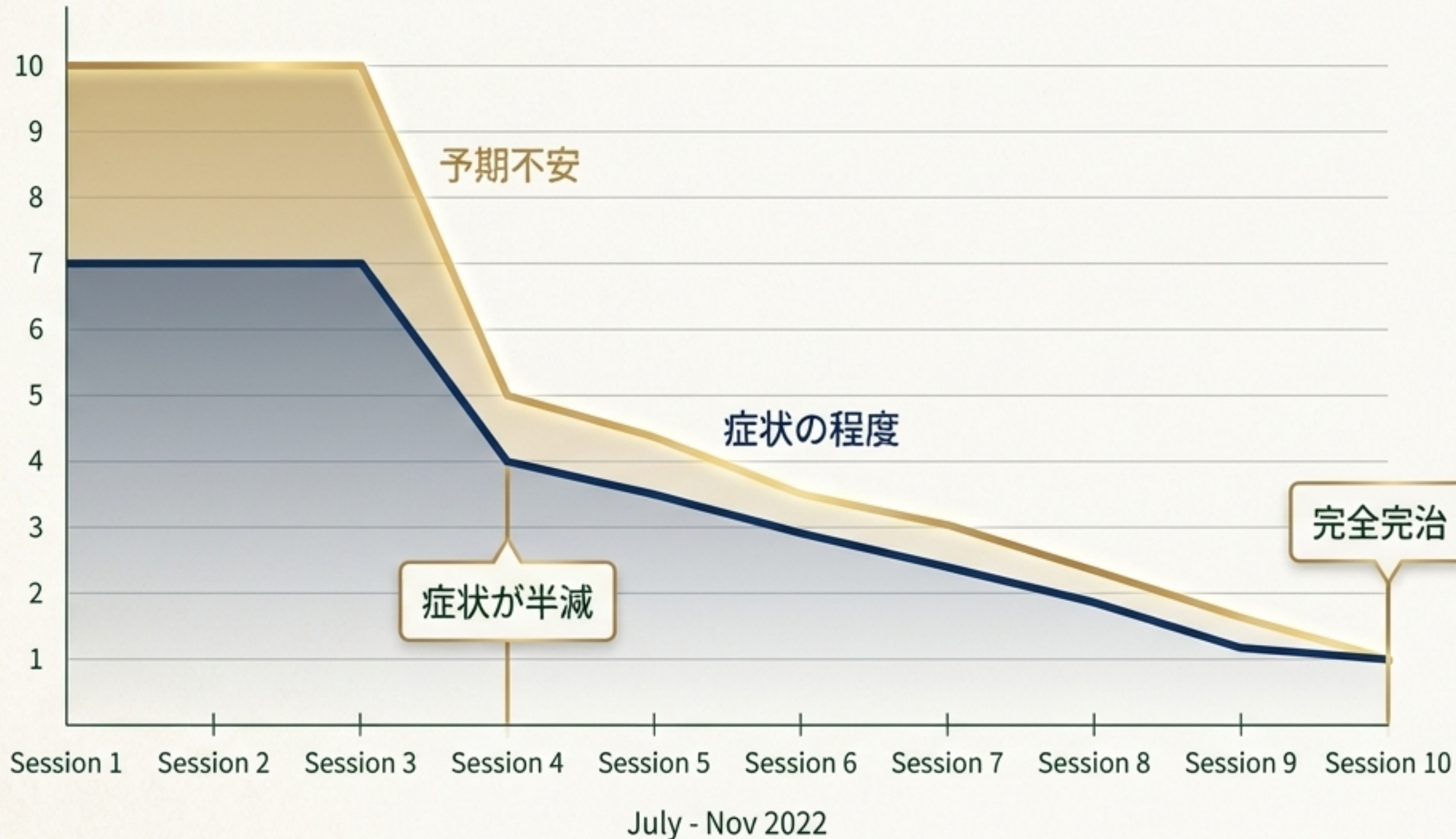
打つ際に頭が真っ白になり狙いが定まらない。ゴルフ中の左膝の脱力感と、重度の腰痛。5年前から発症。

PCRTのメカニズム：脳のバグを特定し、リセットする



PCRTでは、生体反応検査 (EB検査) を用いて、特定の動作イメージ (例：「ダウンスイング」) と辺縁系領域の「反応言語 (キーワード)」との結びつきを探ります。筋肉の反射を利用し、どの無意識の感情が運動神経にロックをかけているのかを物理的に特定・解除します。

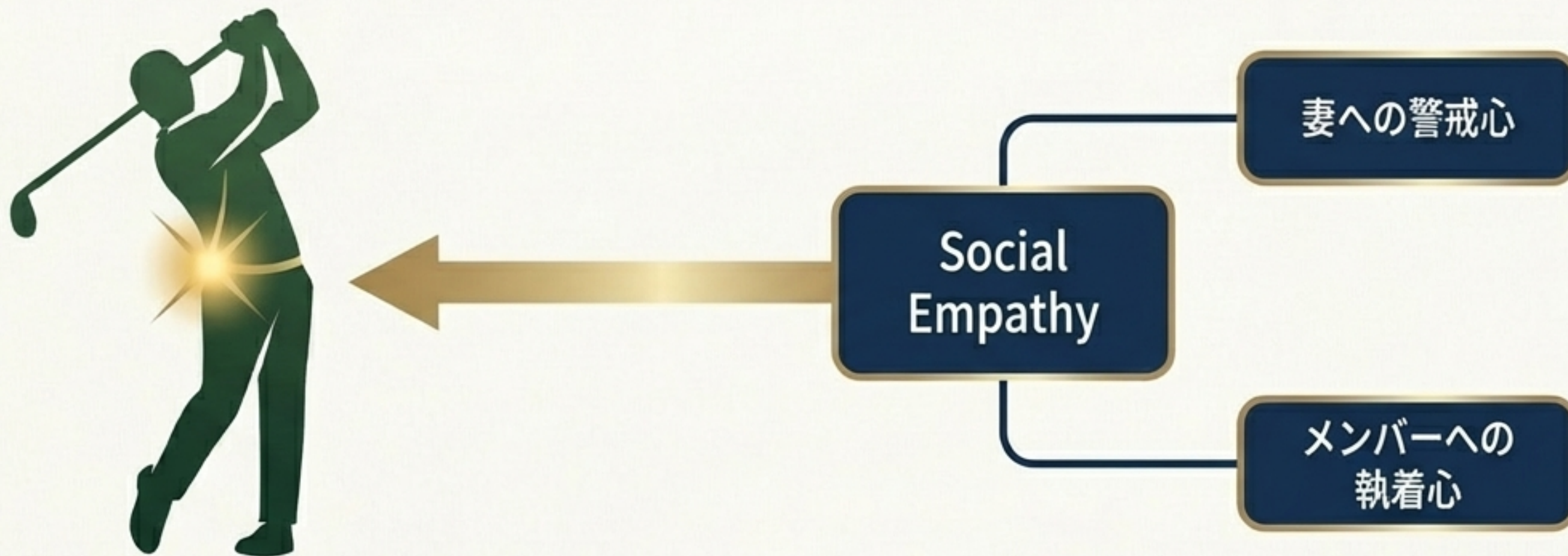
完治への軌跡：不安が消え、身体が解放されるまで



全10回（約4ヶ月） の施術データ

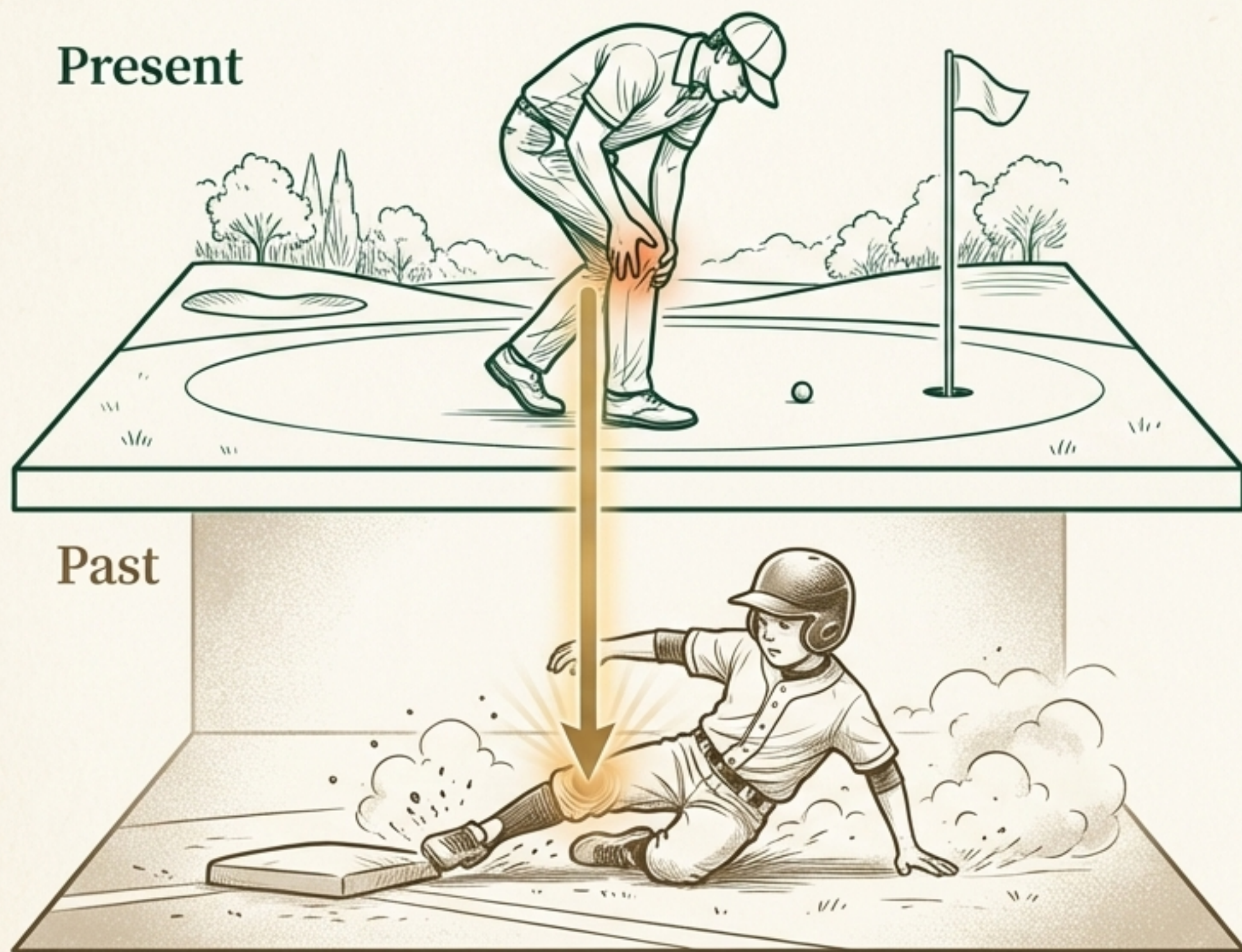
注目すべきは、身体的な症状が消える前に、まず「予期不安（コースに出る恐怖）」が劇的に低下している点です。脳の誤作動信号が解除されると、身体のロックは自然に解けます。

隠されたトリガー①：他者への過剰な配慮が「腰」を固める



症状:	スイングを振り切る際に腰が固まる (第1~2回施術)。
無意識のキーワード:	「警戒心」「執着心」
解説:	妻に内緒でゴルフに来た罪悪感。そして「自分のミスで同伴メンバーの空気を壊したくない」という強烈な配慮。
洞察:	争いを嫌う彼の優しい性格が、神経系にプレッシャーを与え、物理的に腰部をフリーズさせていました。

隠されたトリガー②：過去の理不尽なトラウマのフラッシュバック



症状：ゴルフ中、左下肢・左膝に力が入らない（第4回施術）。

無意識のキーワード：「劣等」「意欲」

解説：学童野球時代、ケガが治りきらない状態で監督に怒鳴られ、無理やり二塁へスライディングをして再負傷した記憶。

洞察：神経系は数十年経っても「理不尽な圧力」と「左膝の痛み」を記憶しており、ゴルフのプレッシャー下でその防衛本能（脱力）を再現していました。

隠されたトリガー③：期待と過去の挫折が交差する「思考停止」



症状:	狙いが定まらず頭が真っ白になる。パーが取れる気がしない（第6～7回施術）。	
無意識のキーワード:	「猜疑心」「義務」「恐怖」	解説：プロからの「もっと結果が出るはず」という期待の言葉がトリガー。
解察:	スコアへのプレッシャーが、中学陸上部での「努力が報われなかった猜疑心」や、5年前の仕事で「顧客	
洞察:	を失い上司に酷く怒られた恐怖」と同じ神経回路を発火させ、脳をシャットダウンさせていました。	

隠されたトリガー④:「ドライバー」だけに宿る虚栄心と羞恥心

理想の自己



恐怖の自己



症状: ドライバー以外は打てるが、ドライバーのダウンスイング時のみ体が固まる (第9回施術)。

無意識のキーワード: 「虚栄心」 「羞恥心」

解説: 「遠くに飛ばしたい、上手いと思われたい」という虚栄心。過去のティーショットでの大ミスに対する「お情け」を受けた強烈な羞恥心。

洞察: 一番目立つクラブであるドライバーが、彼の中の「他者からの評価」というスイッチを押し、局所的な運動ブロックを引き起こしていました。

もぐら叩き現象：神経系の防衛レイヤーを剥がす



“ 「一つのイップスを改善すると、
違うイップスが出現する。」
—— 施術者の考察 ”

脳は複雑な防衛線を何層にも張り巡らせています。腰、膝、パター、ドライバー…。症状が移動するのは悪化ではなく、深層のバグが表面化している証拠です。一つ一つの誤作動信号（キーワード）を丁寧に特定し、中和していくことでしか、真のシステムクリアには到達できません。

アプローチの比較：なぜ従来の練習では治らないのか？

従来のアプローチ		PCRTのアプローチ
スイングの力学・フォーム修正	焦点	脳と身体をつなぐ神経回路の誤作動
練習不足、プレッシャーへの精神的弱さ	原因の解釈	無意識の感情・記憶による条件反射的ロック
反復練習、気合い、フォームの改造	解決策	EB検査によるトリガー特定と神経系のリセット
悪化、フラストレーション、ゴルフへの嫌悪	結果	フォームを変えずに流れるような動きの回復



心身の調和：あなたの神経系は、書き換えられる

第10回の施術後、ドライバーのスイングは良好になり、固まる感覚は完全に消失しました。純粹にゴルフを楽しむ喜びを取り戻したのです。

あなたのイップスは、才能の欠如でも、練習不足でもありません。あなたの神経系が、あなたを守ろうとして生んだ「独自のコード」です。その暗号を解読すれば、身体の内なる自由は必ず取り戻せます。